

**認定看護師
新生児集中ケア**



新生児集中ケア認定看護師 について

- 認定看護師は臨床経験5年、うち特定専門分野での経験年数3年以上で受験資格ができます。
- 新生児集中ケアは2004年から教育課程が開設され、広島県看護協会、北里大学相模原キャンパス（神奈川県）などで開講されてきました（現在、休止中）。
- 研修期間は10月～3月までの6ヶ月間。
- そのうち1ヶ月間は病院実習です。
- 主な実習施設は、北里大学病院
日本赤十字社医療センター
神奈川県立こども病院 など



新生児集中ケア認定看護師に 期待される能力

- ①新生児の病態の急激な変化を予測し、重篤化を予防すると共に、生理学的安定を図ることができる。
- ②新生児の障害なき成育のために神経行動学的な発達を促すための個別化されたケアを実施することができる。
- ③心理的な危機状態に直面している家族が、子どもとの関係を築けるように支援することができる。
- ④急性期にあるハイリスク新生児とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
- ⑤より質の高い医療を推進するため、他職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
- ⑥新生児集中ケア領域の看護実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる



新生児集中ケアとは

■新生児とその家族をケアの対象としています。

- NICU・GCUにおいて、急性期にある早産児や様々な疾患を抱えたハイリスク新生児とその家族をケアの対象としています。急性期には出生直後からの救命（蘇生）も含まれます。



■急性期にある新生児のベッドサイドケア（観察を含む、必要な処置やケア、医師の診療の介助など）を行います。

- 予測的な観察と、常に児の反応を確かめながら、より安全で安楽な方法を個別に選択し、看護ケアを提供しています。

ハイリスク新生児とは

◆生後28日までの赤ちゃんを新生児といいます。

新生児期は、子宮外での生活に適應する時期であり、親子を中心とした家族關係の形成において特別な時期です。

すべての赤ちゃんが、本来そのダイナミックな変化に
適應する力を持っています！！

◆しかし、出産には様々な危険が伴うことがあります。早産のため十分に成熟していない状態で生まれてくる赤ちゃんや、病気を抱えている赤ちゃんにとって、そのリスクは高まり、持っている力を十分に發揮できなくなってしまう場合があります。

◆その場合、呼吸や循環、体温調節、栄養摂取などに多くのサポートが必要となります。NICU・GCUでこれらのサポートや細やかな觀察を必要とする赤ちゃんのことをハイリスク新生児といいます。

◆早産とは？・・・妊娠37週までにお産に至ることを早産といいます。

◆なかでも体重が2500g未満で生まれた赤ちゃんを低出生体重児、

1500g未満の赤ちゃんを極低出生体重児、

1000g未満の赤ちゃんを超低出生体重児といいます。

NICUにおける看護実践①

初期ケア（入院時の看護）

- 出生直後は全身状態が不安定な時期です。
- 子宮外生活への適応をサポートするため、呼吸や循環動態の変化を細やかに観察しながら、まずは体温を保持できるよう、保温を行います。

できるだけ赤ちゃんにストレスを与えないよう、
迅速かつ安全に必要な処置を行います。

- 入院時には、点滴確保や採血、レントゲン、エコーなどの検査、必要に応じて人工呼吸器の装着や保育器への収容を行います。
- 赤ちゃんの状態をアセスメントし、病態の変化や経過を予測した看護計画を立案します。
- できるだけ安静を保持できるよう、急性期のケア介入は必要最小限とすることが原則です。



NICUにおける看護実践②

日常のベッドサイドケア（生後数日～それ以後の看護）

- ◆呼吸や心拍数、血圧などを常にモニタリングし、細やかな観察で、異常を早期に発見できるようにしています。
- ◆人工呼吸器の管理を行い、呼吸をサポートします。
- ◆保育器で児に温かい環境を提供し、体温を保ちます。
- ◆点滴やチューブからの授乳による栄養管理を行います。
- ◆全身状態の安定化を図り、合併症を予防して、赤ちゃんの成長を支えます。
- ◆成長・発達のための養育環境を整え、赤ちゃんのストレスを減らし、発達を促すケアを個別的にを行います。

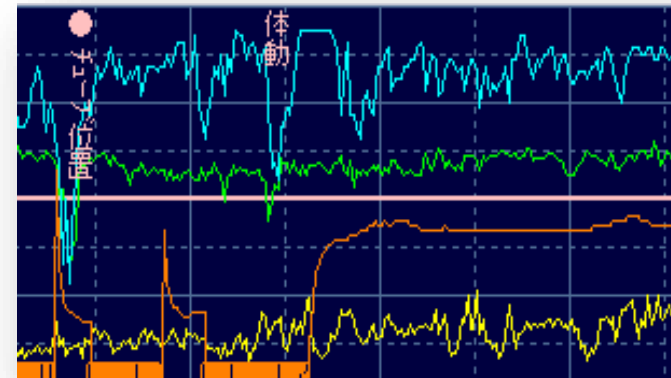
ティベロップメンタルケア

音・光刺激からの保護

ホールディング

ポジショニング

カンガルーケア など・・・



NICUにおける看護実践③

ティベロップメンタルケア（個別的発達促進ケア）をご紹介します

母乳口腔内塗布

- ◆ まだ口からおっぱいを飲めない赤ちゃんに対し、母乳をしみこませた綿棒を口の中に入れ、舐めたり吸ったりしてもらいます。
- ◆ 赤ちゃんの五感の中でも嗅覚の発達は胎児期早期（胎生12～15週頃）からで、そのため出生直後から母乳のにおいを認識していることが知られています。
- ◆ 赤ちゃんが母乳の味や匂いを体感する機会をつくることで、直接お母さんのおっぱいを吸うための準備をしています。また、母乳の匂いを嗅いだり舐めたりすることで赤ちゃんのストレスを軽減したり、リラックスさせる効果があるようです。

カンガルーケア

- ◆ お父さん、お母さんの素肌の胸で、オムツ1枚だけを着けた裸の赤ちゃんを、直に抱っこしてもらいます。
- ◆ 肌と肌をあわせることにより、赤ちゃんとお母さんの心理的な絆がより深まります。
- ◆ また、赤ちゃんにとっては睡眠が深くなったり、呼吸のリズムが整うなど、成長発達を促進することができるとされています。

NICUにおける看護実践④

家族ケア（ファミリーセンタードケア）

- ◆NICUに入院している赤ちゃんのご両親は、24時間ずっと側と一緒に過ごすことができないため、離ればなれの時間があります。
- ◆治療のことや今後の成長・発達のことなど、ご両親は心理的にも様々な心配や不安を抱えています。
- ◆ご両親の不安が少しでも軽くなるように、赤ちゃんの状態を丁寧に説明し、ご両親が赤ちゃんの状況を十分に理解できるよう努めます。

- ◆ご両親の面会時には、日々の赤ちゃんの成長や、様々な行動の意味などを共有し、赤ちゃんのティベロッフメンタルケアについてもご両親と一緒にを行います。
- ◆赤ちゃんのご両親が良好な親子関係を築けるように、早期からの接触を促し、赤ちゃんの状態にあわせて、お風呂やオムツ交換など日常生活のケアを一緒に行ないます。

- ◆ママの思いと児の特徴に沿った母乳育児をサポートします。

おわりに

**私たちが日々接する小さく生まれた赤ちゃんや、
病氣と闘う個性あふれる赤ちゃんたち。**

**みんな実は、力強くて生命力にあふれた存在です！！
小さな身体の全部を使って
色々なことを私たちに語りかけ、
教えてくれています。**

**その声に耳を傾けながら、赤ちゃんのご家族にとって
何が一番よいのか、ご家族と共に、考えたいと思います。**

**看護師・医師、医療スタッフ全員で協働し、
赤ちゃんの幸せな未来にむけて、
よりよい医療・看護を実践していきたいと考えています。**



kyoto university hospital

NICU

